



Informatica® Application Integration
October 2022

Workday V2 コネクタガイド

Informatica Application Integration Workday V2 コネクタガイド
October 2022

© 著作権 Informatica LLC 1993, 2023

発行日: 2023-07-04

目次

序文.....	4
第 1 章 : Workday コネクタについて.....	5
Workday コネクタ.....	5
Workday の操作.....	6
Workday の汎用操作.....	6
カスタム操作の設定.....	6
Workday コネクタの管理.....	7
第 2 章 : Workday 接続.....	8
Workday 接続の概要.....	8
基本接続のプロパティ.....	8
Workday 接続のプロパティ.....	9
Workday 接続メタデータ.....	10
第 3 章 : Workday コネクタのプロセス.....	12
Workday コネクタのプロセスの概要.....	12
Workday コネクタプロセスの例.....	12
ステップ 1: Workday 接続を作成する.....	13
ステップ 2: 入力および出力フィールドを設定する.....	13
ステップ 3: 入力および出力フィールドに値を割り当てる.....	14
ステップ 4: サービス呼び出しを設定する.....	15
ステップ 5: Workday 応答のフィールドを選択する.....	16
ステップ 6: プロセスを実行する.....	16
索引.....	17

序文

『*Workday V2* コネクタガイド』で、Workday コネクタを設定および使用する方法を確認します。組織の管理者とビジネスユーザーが Workday コネクタを使用して、Workday で操作を実行する方法について説明します。

第 1 章

Workday コネクタについて

この章では、以下の項目について説明します。

- [Workday コネクタ, 5 ページ](#)
- [Workday の操作, 6 ページ](#)
- [Workday コネクタの管理, 7 ページ](#)

Workday コネクタ

アプリケーションの統合から Workday に接続し、リアルタイムアプリケーション統合プロセスを作成して、Workday とやり取りできます。Workday コネクタは、サービス呼び出しとしてアプリケーションの統合で利用できます。アプリケーションの統合から Workday に接続し、リアルタイムアプリケーション統合プロセスを作成して、Workday とやり取りできます。Workday コネクタは、サービス呼び出しとしてアプリケーションの統合で利用できます。

Workday は、オンデマンドかつクラウドベースのエンタープライズリソースアプリケーションで、財務管理および人材管理アプリケーションが含まれています。Workday は Web サービス API を公開しており、Secure Agent はその API を使用して、データを読み書きしたり、Web サービスベースのプロセス、アプリケーション、システムをリアルタイムで統合できます。

Workday V2 接続を使用すると、Workday の SOAP ベースの Web サービスバージョンでサポートされるすべてのサービスと操作にアクセスできます。Informatica Cloud®から操作を実行すると、Workday から取得したデータの階層データ構造をリレーショナル形式に変換してから、リレーショナルテーブルに書き込むことができます。リレーショナル形式を階層形式に変換した後、リレーショナルソースから取得したデータを Workday に書き込むこともできます。

例

人材管理者が、過去 1 か月に離職した従業員の詳細をアーカイブしたいと考えています。従業員 ID に基づいて Workday で従業員を検索し、Get_Workers 操作を使用して従業員データを取得し、詳細を Oracle データベースターゲットに書き込みます。Workday コネクタを使用して、XML 構造で従業員データを取得し、対応するリレーショナル構造を定義して、リレーショナルターゲットに書き込みます。

Workday の操作

Workday は Web サービス API を公開しており、Secure Agent はその API を使用して、SOAP プロトコルを介して統合タスクを実行します。

プロセスを作成するときは、Workday の接続や操作を関連付けることができます。接続で指定する Workday WSDL バージョンとモジュールに基づき、対応する Workday の Web サービスに Secure Agent が接続し、データにアクセスして転送または配信します。要求と応答は SOAP メッセージです。SOAP 要求および応答メッセージには、階層データが含まれており、データは XML スキーマに従います。リレーショナルターゲットにデータを書き込む場合は、Secure Agent が Workday からフェッチした階層データをリレーショナルデータに変換します。

Workday の汎用操作

次の表は、Workday サービスを使用して実行できる汎用操作について説明しています。

操作名	説明
Find_*	要求の要素で指定した条件に一致するオブジェクトへの一連の参照で応答します。 例: Find_Organization
Add_Update* Submit_* Import_*	オブジェクトが存在しない場合は追加します。または、要求の要素で指定した条件に一致するオブジェクトを更新します。 例: Add_Update_Organization
Add_* Put_*	要求の要素で指定した条件に一致する Workday オブジェクトにレコードを追加します。 例: Add_Workday_Account、Put_Holiday_Calendar
Get_*	要求の要素で指定した条件に一致するオブジェクトのリストを取得します。 例: Get_Workers
Update_* Change_*	要求の要素で指定した条件に一致するオブジェクトを変更します。 例: Update_Academic_Appointment
Cancel_*	要求の要素で指定した条件に一致する操作をキャンセルします。 例: Cancel_Cash_Sale

カスタム操作の設定

Workday Web サービスがサポートするカスタムオブジェクトの操作を実行できます。

Workday のカスタムオブジェクトのスキーマにアクセスするには、接続の WSDL に固有のテナントを指定する必要があります。カスタムオブジェクトの Web サービス操作を設定すると、追加データとして操作が表示されます。

カスタムオブジェクトをサポートする、次の Web サービス操作を実行できます。

- 求人応募追加データの取得
- 求人応募追加データの追加
- 従業員追加データの編集
- 従業員補充依頼の追加データの編集
- 役職制限の追加データの編集

Workday コネクタの管理

ユーザーは、組織の管理者が次のタスクを実行した後に Workday コネクタを使用できます。

- 64 ビットマシンに Secure Agent をインストールする。
- Secure Agent をホスティングしているマシンのメモリサイズが、2048 MB 以上であることを確認する。
- ユーザーが操作を実行するために必要な権限を制御する、Workday のセキュリティグループを定義する。
Workday のユーザーのセキュリティグループおよび権限の定義の詳細については、Workday のドキュメントを参照してください。

第 2 章

Workday 接続

この章では、以下の項目について説明します。

- [Workday 接続の概要, 8 ページ](#)
- [基本接続のプロパティ, 8 ページ](#)
- [Workday 接続のプロパティ, 9 ページ](#)
- [Workday 接続メタデータ, 10 ページ](#)

Workday 接続の概要

Workday 接続を使用して、Workday のデータを読み取り、Workday にデータを書き込むことができます。

ドメイン、テナント、Workday モジュール、および WSDL バージョンを Workday 接続に関連付けることができます。

Secure Agent は、指定された、対応する WSDL にアクセスする URL をプログラムで内部的に作成します。

例: `https://<ドメイン名>/ccx/service/<テナント名>/<モジュール名>/<バージョン>?wsdl`

カスタマイズされたオブジェクトの操作を実行する必要がある場合は、Workday 接続プロパティで [カスタマイズ] を選択します。Secure Agent は、対応する WSDL から取得したカスタムデータにアクセスする次の URL を作成します。

例: `https://<ドメイン名>/ccx/service/<テナント名>/Custom/Data/<モジュール名>/<バージョン>?wsdl`

プロセス。

基本接続のプロパティ

次の表に、[接続] ページの [プロパティ] タブで使用可能な基本プロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	必須。Process Designer での識別に使用される、この接続の一意の名前。
場所	接続を配置するプロジェクトまたはフォルダの場所。接続の場所を選択するには、適切なプロジェクトまたはフォルダを参照するか、デフォルトの場所を使用します。

プロパティ	説明
説明	オプション。接続の説明。
タイプ	必須。この接続に使用するコネクタまたはサービスコネクタ。設定するタイプを選択します。
実行日時	必須。この接続を実行するクラウドサーバーまたは Secure Agent。
接続テスト	直前の接続テストが表示されます（接続タイプでサポートされている場合）。
OData 対応	（接続タイプでサポートされている場合）。OData フィードを有効にし、許可されているユーザーとグループを指定するには、[はい] を選択します。
OData で許可されたロール	オプション。設計時に接続へのアクセス権を持つロール。カスタムロールまたはシステム定義ロールを入力できます。このフィールドには複数のロールを入力できます。

これらの基本プロパティに加え、コネクタによっては次を定義します。

- 接続タイプに適したプロパティ
- [イベントソース] および [イベントターゲット]（当てはまる場合）

接続をパブリッシュすると、生成されたプロセスオブジェクトが [メタデータ] タブに表示されます。

Workday 接続のプロパティ

次の表では、[接続設定] セクションで設定する必要がある Workday 接続のプロパティを定義しています。

プロパティ	説明
ユーザー名	必須。Workday サービスにログインするための、Workday テナントのユーザー名。 ユーザー名、またはユーザー名とテナントを「<ユーザー名>@<テナント名>」の形式で入力できます。例: jjoe@informatica_pt1 テナント名を指定しない場合、Secure Agent は、接続プロパティに指定したテナント名の値をユーザー名に内部的に付加します。
パスワード	必須。ユーザー名に関連付けられているパスワード。
ドメイン名	必須。アクセスするリソースが含まれる Workday ドメインの名前。
テナント名	必須。アクセスする Workday テナントの ID。例: informatica_pt1
モジュール名	必須。アクセスする Workday サービス。例として、Human_Resources、Financial_Management、Staffing などがあります。 例えば、Web サービスのバージョン 26.1 の利用可能なモジュールを表示するには、次のリンクを参照してください。 https://community.workday.com/custom/developer/API/index.html

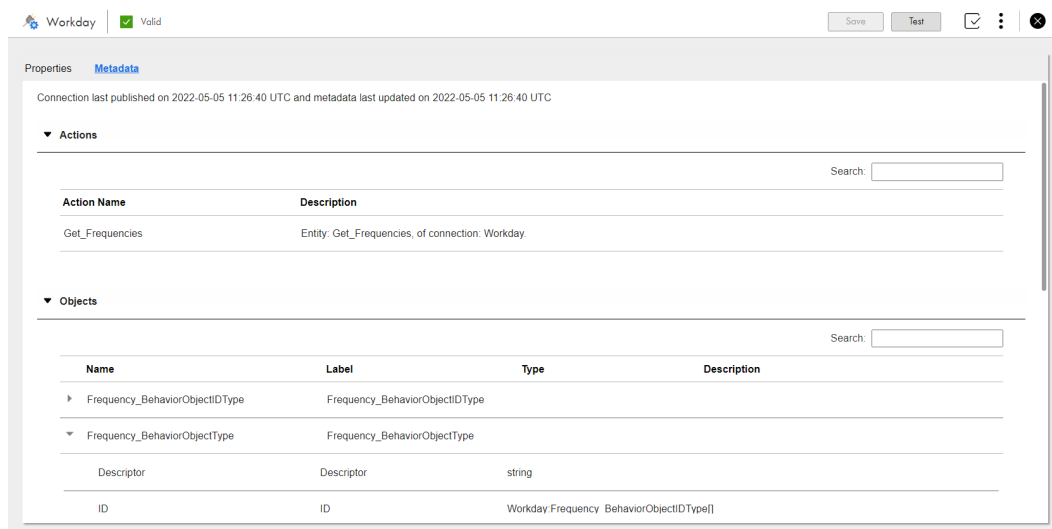
プロパティ	説明
バージョン	<p>必須。Workday から取得するサービスの、Web Service Description Language (WSDL) のバージョン。サービスでサポートされる操作のリストは、選択した WSDL のバージョンによって決まります。</p> <p>サポートされるバージョンについては、次のリンクを参照してください。 https://community.workday.com/custom/developer/API/versions/index.html デフォルトは v24.0 です。</p>
カスタマイズ	<p>Workday オブジェクトのフィールドを取得するための、標準またはカスタムの WSDL。</p> <p>Workday カスタムオブジェクトフィールドを取得するには、[カスタマイズ] を選択します。デフォルトは標準の WSDL です。</p> <p>デフォルトは [いいえ] です。</p>
オブジェクトフィルタ	Workday で実行する必要がある操作。コンマで区切って、複数の操作を指定できます。

Workday 接続メタデータ

Workday 接続を作成したら、その接続を保存します。次に、Workday 接続をパブリッシュして、[メタデータ] タブをクリックし、接続用に生成されたプロセスオブジェクトを表示できます。

Workday 接続をパブリッシュすると、[メタデータ] タブに [アクション] と [オブジェクト] のリストが表示されます。

次の図は、パブリッシュされた Workday 接続の [メタデータ] タブを示しています。



Workday 接続をパブリッシュすると、デフォルトで [メタデータ] タブが更新されます。[パブリッシュ (メタデータの更新をスキップ)] をクリックすると、メタデータの更新をスキップして、パブリッシュにかかる時間を短縮できます。

メタデータ更新のベストプラクティス

- 初めて Workday 接続を作成するときは、[パブリッシュ] をクリックしてメタデータをダウンロードします。メタデータの変更がない場合は、次に [パブリッシュ (メタデータの更新をスキップ)] をクリックします。
- Workday 接続で資格情報を変更するときに、メタデータが変更されていないことがわかっている場合は、接続をパブリッシュするときにメタデータの更新をスキップして、資格情報の変更のみを適用します。
- メタデータが変更されていることがわかっている場合は、[パブリッシュ] をクリックしてメタデータの変更を取得します。

第 3 章

Workday コネクタのプロセス

この章では、以下の項目について説明します。

- [Workday コネクタのプロセスの概要, 12 ページ](#)
- [Workday コネクタプロセスの例, 12 ページ](#)

Workday コネクタのプロセスの概要

アプリケーションの統合の Process Designer を使用し、Workday に対してデータの読み取りと書き込みを実行できます。

Workday コネクタは、サービス呼び出しとしてアプリケーションの統合で利用できます。プロセスでは、サービス呼び出しで Workday 接続を設定し、Workday のデータの読み取りおよび書き込みのために、プロセスで利用可能にする必要がある特定のサービスに関連するパラメータと演算子を指定できます。

Workday コネクタプロセスの例

Workday から従業員の詳細を取得する必要があります。XML 要求を設定し、Get Worker Details 操作を使用したサービス呼び出しを介して Workday に接続し、Workday から従業員の詳細を取得します。

この例では、サービス呼び出しを設定して Get Worker Details 操作を実行し、Workday の従業員 ID に基づき、氏名、生年月日などの従業員情報を読み取ります。

Workday のソースから従業員情報を読み取るには、次のステップを実行します。

1. アプリケーションの統合で Workday 接続を作成します。
2. 従業員の詳細を Workday から読み取るために必要な入力および出力フィールドを設定します。
3. プロセス内のフィールドに値を割り当てます。
4. プロセス内の Workday サービス呼び出しを設定します。
5. 応答 XML で必要な要素を指定します。
6. プロセスを実行します。

次のイメージは、キャンバス上の設定済みプロセスを示しています。



ステップ 1: Workday 接続を作成する

アプリケーションの統合で Workday 接続を作成し、Workday に接続します。Workday の Get Workers 操作を使用するように、接続を設定します。プロセス内の接続を使用して、従業員の詳細にアクセスします。

Process Designer の [デザインホーム] ページで、Workday 接続を作成できます。

1. **【新規】** > **【接続】** を選択します。
2. **【タイプ】** で [Workday V2] を選択します。
3. 接続の名前と説明を入力します。
4. 接続を実行する必要がある Secure Agent を入力します。
5. Workday 接続プロパティを入力します。
[OData 対応] オプションは、Workday 接続では適用できません。
6. 接続をテストします。
7. 接続を保存およびパブリッシュします。
【メタデータ】 タブをクリックすると、Workday で接続がアクセスする Workday メタデータを表示できます。

ステップ 2: 入力および出力フィールドを設定する

要求で Workday に渡す入力フィールドを割り当て、Workday サービスからの応答で必要な出力フィールドを指定します。

1. 要求の入力フィールドを作成して従業員の詳細を Workday から読み取るには、次のステップを実行します。
 - a. 入力フィールド名に、iGetworkersRequest と指定します。
 - b. リストから、**【WD】** を選択します。
 - c. **【Get_Workers_RequestType】** を選択します。
2. 従業員の詳細を取得する Workday の従業員 ID を指定します。iwid 入力変数を追加するには、**【テキスト】** オプションを選択します。
次のイメージは、作成する必要がある入力フィールドを示しています。

WD_GetUpdate Properties

General Start **Input Fields** Output Fields Temp Fields Messages Advanced

Input Format: ☒ Fields ☐ Whole payload

Input Fields (2)

Name	Type	Description	Required
iGetworkersRequest	WD > Get_Workers_RequestType (Default)		<input type="checkbox"/>
iwid	Text		<input type="checkbox"/>

- Workday の出力フィールド、oFirstname、oLastname、oDateofBirth を指定し、従業員の氏名と生年月日を取得します。

次のイメージは、作成する必要がある出力フィールドを示しています。

WD_GetUpdate Properties

General Start Input Fields **Output Fields** Temp Fields Messages Advanced Notes

Output Format: ☒ Fields ☐ Whole payload

Output Fields (4)

Name	Type	Description	Initial Value
oFirstname	Text		
oLastname	Text		
oDateofBirth	Text		
Response	WD > Get_Workers_ResponseRootType (Default)		

ステップ 3: 入力および出力フィールドに値を割り当てる

入力および出力フィールドを作成した後、値を Get Workers Request 操作の入力および出力フィールドに割り当てます。[割り当て] ステップを使用して、フィールドに値を設定します。

[割り当て] ステップを設定して、Workday 入力変数フィールド [iGetworkersRequest] を追加します。

- [割り当て] ステップを作成するには、**[割り当て]** タブをクリックします。
- [フィールドの追加]** をクリックし、フィールドの [ターゲット] と [値] を割り当てます。名前に iGetworkersRequest と指定し、[iGetworkersRequest] 入力フィールドの値として **[式]** を選択します。

次のイメージは、[iGetworkersRequest] 入力フィールドの割り当てを示しています。

Assignment to iGetworkersRequest Properties

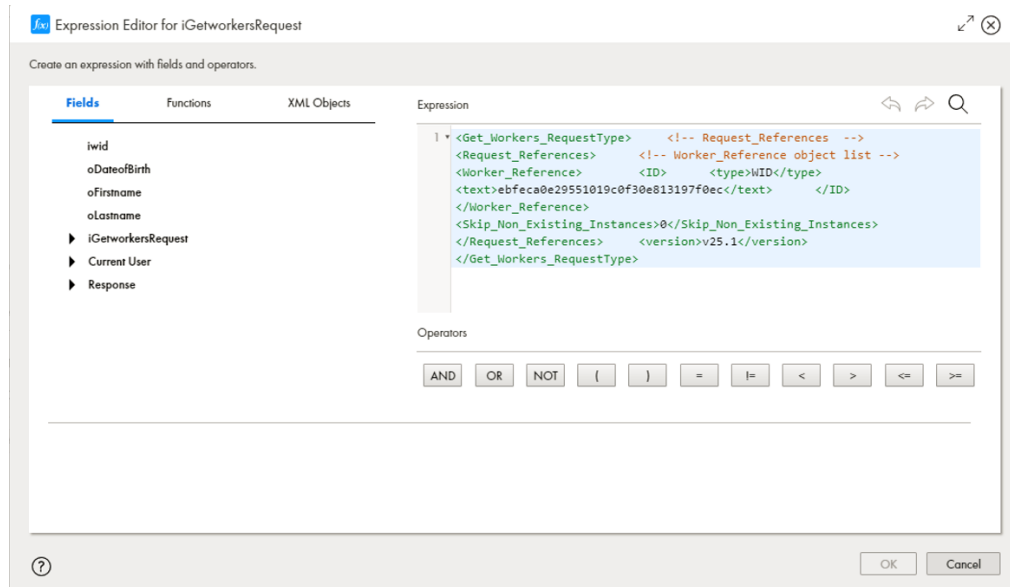
General **Assignments**

Target	Value
iGetworkersRequest	Formula <input type="text" value="<Get_Workers_Req"/> <input type="button" value="fx"/> <input type="button" value="x"/>

Add Field Reorder

- [式エディタ]** の **[フィールド]** タブで、[iGetworkersRequest] を選択します。

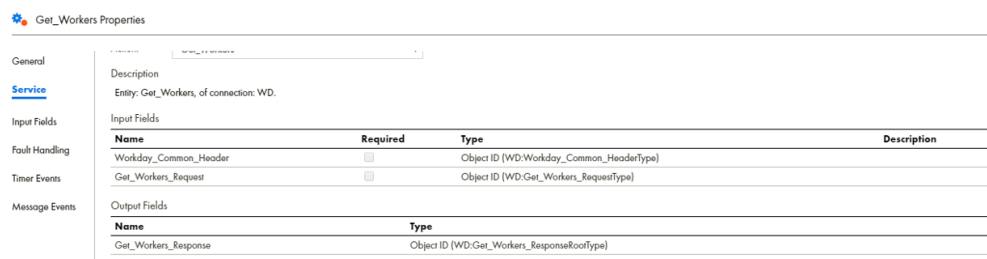
4. Worker Reference ID Type の入力値に、WID および WID の値を指定し、Workday の入力変数から従業員情報を読み取ります。
次のイメージは、Get Workers 操作の要求 XML を示しています。



ステップ 4: サービス呼び出しを設定する

Process Designer で Workday サービス呼び出しを作成し、Get Workers 操作にアクセスする Workday 接続を使用します。

1. プロセスで、のサービスステップを設定し、Workday 入力パラメータに対する入力を設定します。
次のイメージは、のサービスステップ設定を示しています。



2. Workday 入力変数から読み取るように、のサービスステップを設定します。以下の手順を実行します。
 - a. Get_Workers の入力フィールド、Get_Workers_Request を追加します。
 - b. **【入力フィールド】** タブで、Workday 入力フィールド値のソースとして **【フィールド】** を選択し、**[iGetWorkersRequest]** 入力フィールドを選択します。
次のイメージは、のサービスステップでの入力フィールドの設定を示しています。

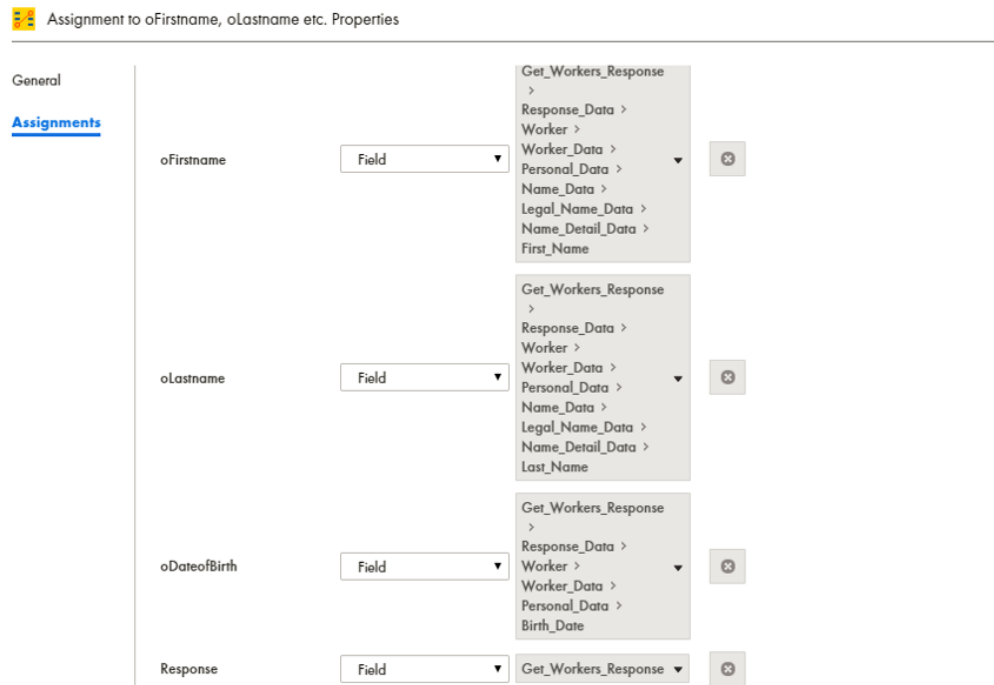


ステップ 5: Workday 応答のフィールドを選択する

設定済みの Get Workers 要求が、Workday の応答を返します。Workday からの応答の構造で必要なフィールドを追加します。

フィールドを追加するには、次のステップを実行します。

1. [割り当て] ステップを作成します。
2. **[フィールドの追加]** をクリックし、次の名前を割り当てて、各フィールドのソースの値として、フィールドを指定します。
 - oFirstname
 - oLastname
 - oDateofBirth
3. 階層ツリーの特定のレベルから取得するデータに対応するパスを選択します。
次のイメージは、応答内の設定済みフィールドと、それに対応する階層内のパスを示しています。



ステップ 6: プロセスを実行する

プロセスを保存すると、新しいプロセスが【プロセス】タブに表示されます。

1. **[プロセスのプロパティ]** ダイアログボックスで **[開始]** タブをクリックします。
2. **[匿名アクセスを許可]** オプションを有効にします。
3. [デザインホーム] ページでプロセスを選択し、サービス URL をコピーします。
4. サービス URL を使用してプロセスを実行します。
プロセスが実行され、Secure Agent が従業員の詳細を取得します。

索引

W

Workday

接続プロパティ [9](#)

操作の概要 [6](#)

Workday コネクタ

概要 [5](#)

管理 [7](#)

例 [12](#)

Workday コネクタのプロセス

概要 [12](#)

Workday 接続

パブリッシュされたメタデータ [10](#)

概要 [8](#)

ふ

プロセスの例

サービス呼び出しの設定 [15](#)

フィールド値の割り当て [13](#)

プロセスの実行 [16](#)

応答 XML のフィールドの選択 [16](#)

概要 [12](#)

接続の作成 [13](#)

値の割り当て [14](#)